

「確かな学力」の向上のためにⅢ

～「学び合い」と「学びの習慣づくり」の充実で～

平成23年3月 福島県教育庁県北教育事務所



今までの取組み状況及び新学習指導要領の趣旨から、引き続き

学 び 合 い と **学 び の 習 慣 づ くり**

に重点を置き、いっそう充実させることで着実に「確かな学力」の向上を図ります。

〈今までの取組みから〉

- 授業の中で、「学び合い」が意識され、場や機会が設定されてきている。
- 家庭学習の手引き等の作成、配付・啓発等、家庭との連携が進められてきている。
- 全国学力・学習状況調査の結果等から、まだ十分な成果が得られているとは言えない現状にある。

〈新学習指導要領から〉

確かな学力を育成するために配慮しなければならないこと
「言語活動の充実」「学習習慣の確立」
(H23年度は、小学校で完全実施、中学校で移行期最終年度となるため、その趣旨を具体化することが求められる。)

確かな学力

基礎的・基本的な
知識・技能

思考力・判断力・
表現力等

学 習 意 欲

基礎的・基本的な知識や知能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う。(学校教育法30条②参照)

学び合いの充実

「学び合い」で思考の共有と吟味を

「学び合い」には、次の効果が期待されます。

- 習得した知識・技能を活用する力がつき、思考力・判断力・表現力等を高めることができるようになる。また、知識・技能の定着が確かなものとなる。
- 友達とのかかわりを深め、共に学ぶ楽しさを実感し、思考を共有することで互いのよさに気付き、豊かな人間関係をはぐくむことができるようになる。

そこで、「確かな学力」の向上のためには「学び合い」をより効果的にすることが重要となります。つまり、単に子ども同士の意見の発表だけにとどまらず、子どもたちが学習のねらいに沿って、お互いの意見をやり取りし、話し合うこと等で高まりを感じるような思考の共有と吟味を十分に行えるようにすることが大切です。

学びの習慣づくりの充実

学習サイクルの工夫を

「確かな学力」を育成するためには、授業の充実とともに、子どもに学習の仕方を身に付けさせる指導を行ったり、学習相談等を充実させたりすることも大切です。また、家庭との連携を図りながら、子どもの学習習慣をつくっていくことも重要となります。

これらの取組みにあたっては、次の点に留意し、**学校の方針を明確にして取り組む**ことが大切です。

- 授業と家庭学習、朝の学習などを関連付けた学習サイクルを工夫する。
- 子どもの学習意欲を喚起し、主体的な学習へとつながる家庭学習の内容や方法を工夫する。
- 家庭学習プログラム開発校の実践等を参考にし、子どもの実態に応じて**自校化**を図る。

子どもたちの思考の共有と吟味のために、私たち教師ができること

「学び合い」を通して「確かな学力」を子どもたちに身につけさせるには、考えるポイントが明確な授業の構想、子どもの思考の的確な把握、学びが深まる指示や発問等、「教師の役割」を明確にすることが大切です。

次の「授業改善に生かしたいポイント」を参考に、子どもの学ぶ姿に即して「教師の役割」を考え、「学び合い」を通して子どもたちの思考が高まり、学ぶ意欲に満ちあふれた授業を創造していきましょう。

授業改善に生かしたいポイント

子どもの実態と学習目標を踏まえた指導の重点化

- 子どもの実態を把握して、教材研究を深める
- 学習目標、1時間1時間のねらいを明確にして指導構想を練り、重点化を図る
＜具体的に押さえること＞
 - 子どもの願い
 - 既習内容の定着
 - 興味・関心
 - つまずきの傾向
 - 単元・各時間のねらい
 - 知識・技能の習得と活用
 - 育てたい資質や能力
 - 教えること・考えさせること
 - 教材、教具 等

子どもにとって学びがいのある学習課題の設定と把握のさせ方

- 学びがいがあり必然性をもたせることができる学習課題を設定する
- 把握のさせ方を工夫して解決の意欲や見通しをもたせる
＜具体的に押さえること＞
 - ねらいを効果的に達成できる課題
 - 学ぶ価値を感じる課題
 - 解決の意欲をもたせる提示
 - 分かりやすい提示
 - 「学習させたいこと」と「学習したいこと」の突き合わせ
 - より発展性のある課題 等

子どもに自分の考えをもたせる場の保障

- 子どもの主体的な課題解決のために、考える時間を適切に位置付ける
- 教材としっかりと向き合わせ、既習の知識・技能を生かして課題に取り組ませる
＜具体的に押さえること＞
 - 適度な考える時間の確保
 - 教材の活用
 - 目的の明確化
 - 考え方の示唆
 - 活動の指示
 - 発問の目的・内容・問いかけ方・タイミング等の吟味
 - 子どもの見取りと個別指導 等

子どもにとって効果的な学び合いの工夫

- 子どもが、思考の共有を図ることができるよう意図的に指導する
- 子ども同士が、全体やグループの中で吟味ができるようにつなぐ
＜具体的に押さえること＞
 - 意見など直接もしくは間接的に共有化を図る方法
 - 伝えあう場の保障
 - 多様な集団づくり
 - 教師による意図的なつなぎ
 - 聴くこと、話すことの指導
 - 教材とのかかわりの確認
 - 違いやよさに気付かせる工夫
 - 子どもの見取りと適切な方向付け 等

子どもの学びを生かしたまとめの工夫

- 子どもの発達の段階に応じて、各自に振り返らせ、まとめられるよう工夫する
- 子どもが、次の見通しをもつことができるようにする
＜具体的に押さえること＞
 - 学習の成果を自覚させるまとめ
 - 自分や友達のよさをとらえる自己評価や相互評価
 - 家庭学習への接続
 - 発展的な内容を意図的に仕組み、次時につなげるまとめ 等

※「学び合い」は単なる話し合いにとどまらず、課題把握からまとめまで様々な場面で行われます。

生きる力

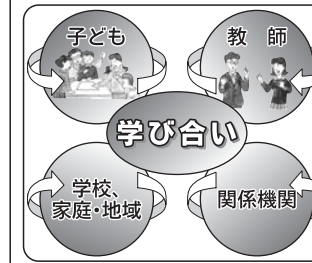
第6次福島県総合教育計画

基本理念 “ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり

- 基本目標
- 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
 - 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
 - 豊かな教育環境の形成

- 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力 など

「学び合う」県北の教育



子どもの学び合い

- ・ 教師の指導のもと、子どもたちが教材と向き合い、自立し、他者と協同して課題解決する学習活動

教師の学び合い

- ・ 子どもの学びの姿を中心に据えた、研修等による教師の専門性の向上

学校、家庭・地域、関係機関の学び合い

- ・ 目指す子どもの姿を共有した連携・協力
- ・ 幼・小・中・高の連携の推進

確かな学力の向上

- ◎ 「確かな学力」の向上を目指す実効あるグランドデザインへの改善
 - ◇ P D C Aを踏まえた明確で具体的な実践内容の位置付け
 - ◇ 長期、中期、短期の評価の工夫と学校関係者評価の活用
- ◎ 「確かな学力」の向上を支える基盤（環境）づくり
 - ◇ 学級経営を土台としたよりよい人間関係の構築
 - ◇ 聴き方・話し方を重視した学び合う集団の育成
 - ◇ 発達段階に応じた「学び方」「学習訓練」の確立
 - ◇ 学びの習慣を育てる「授業」「家庭学習」「朝の学習等」の学習サイクルの確立
 - 幼児の主体的な活動を促す計画的な環境構成

確かな学力

学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力等



より効果的な学び合いにするためには、教師の役割が大切です。

- 子どもの学びの姿を把握する。
- 教材をもとに考えさせる。
- 子ども一人一人の思考をつなぐことによって、自他の思考の違いやよさに気付かせる。

◎ 「確かな学力」の向上を目指す授業（保育）の充実

授業改善に生かしたいポイント

- 子どもの実態と学習目標を踏まえた指導の重点化
- 子どもにとって学びがいのある学習課題の設定と把握のさせ方
- 子どもに自分の考えをもたせる場の保障
- 子どもにとって効果的な学び合いの工夫
- 子どもの学びを生かしたまとめの工夫

- ◇ 子どもの学びの姿に即した教材研究・分析の充実
- ◇ 「わかる・できる授業」のための発問、板書、ノート指導等の工夫
- ◇ 「習得」「活用」「探究」を関連付けた学習活動の充実
- ◇ 体験的な学習や問題解決的な学習の重視
- ◇ 思考力・判断力・表現力等を育成するための言語活動の充実
- ◇ 少人数教育のよさを生かした指導の推進
- 「言葉」と「体験」を大切にしたい指導と人間関係づくりの重視

◎ 「確かな学力」の向上を支える研修等の充実

- ◇ 子どもの学びの姿に即した校内研修の活性化と授業の充実
- ◇ 基礎的な指導力の向上と日々の教材研究の見直し
- 幼稚園教諭の専門性の向上
(幼児期の発達の特徴を踏まえた指導の充実)

豊かな人間性・社会性の育成

道徳教育の充実

- ◎ 重点目標を設定した全体計画と各教科等との関連を考慮した指導計画の改善
 - ◇ 各教科等、体験活動との関連的指導を明確にした年間指導計画の作成
- ◎ 道徳の時間の指導体制の確立と多様な展開を図るための工夫
 - ◇ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力的な指導体制の確立
 - ◇ 「道徳の時間」の授業公開と、保護者や地域の人々が参加・協力する体制づくり
- ◎ よさを認め励ます評価
 - ◇ 指導の前後における児童生徒の心の変容を、長期的・多面的に見取る総合的な評価

特別活動の充実

- ◎ 自校の課題解決を目指した指導計画の改善
 - ◇ 重点的に育成していくべき資質や能力に即した評価観点を設定した指導計画の作成
- ◎ 自主的・実践的な態度を育成するための指導の工夫
 - ◇ 一人一人が自己の役割や責任を果たし、集団の一員としての自覚を深める指導の充実
- ◎ 特別活動の特質を踏まえた評価の工夫
 - ◇ 育成すべき資質や能力が確実に育てられているかの確認

生徒指導の充実

- ◎ 積極的な生徒指導の推進
 - ◇ 望ましい学級集団の形成
 - ◇ 基本的な生活態度や守るべき規範の形成
 - ◇ 教育相談の一層の充実
- ◎ 不登校解消やいじめ根絶の推進
 - ◇ 児童生徒の実態の的確な把握による問題の早期発見、早期対応、早期解決
- ◎ 問題行動の未然防止と迅速な対応
 - ◇ 家庭や地域、近隣校、関係機関との実効ある連携

特別支援教育の充実

- ◎ 一人一人のニーズに応じた指導の充実
 - ◇ 支援内容の明確化と「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の有効活用
 - ◇ 具体的で分かりやすい学習支援
- ◎ 集団とのかかわりを重視したよりよい友達関係の構築
 - ◇ よりよい人間関係づくりと、基本的な社会的スキルの習得へ向けた学習の工夫
- ◎ 連携を生かした支援体制の充実
 - ◇ 機能する校内支援体制の確立
 - ◇ 家庭との信頼関係を大切にしたい一貫性ある支援
 - ◇ 特別支援学校、関係機関等との連携

体力の向上と健康・安全

- ◎ 体育・健康に関する指導計画の工夫・改善
 - ◇ 明示された指導内容を確実に身に付けさせるための各単元や授業時数の的確な配当と実践
 - ◇ 実効性のある「学校保健計画」「学校安全計画」「食育全体計画」等の作成、改善
- ◎ 体力の向上に関する指導の充実
 - ◇ 運動身体づくりプログラムの自校化等、体力づくり推進計画の作成、改善とその確実な実施
 - 自ら体を動かす気持ちよさを体験できる場の設定

◎ 健康に関する指導の充実

- ◇ 『性に関する教育』の手引』の活用を図った発達の段階に応じた指導
- ◇ 学校給食等を効果的に活用した食に関する指導の展開

◎ 安全に関する指導の徹底

- ◇ 具体的な場面を想定した指導による危険予測・危険回避の能力の育成

※ □印：特に幼稚園にかかわる内容

社会教育からの支援

○地域の教育力の活用（学校支援・家庭教育支援）

○学習機会の提供（公民館、学習センター、図書館）

○放課後の安全・安心な子どもの居場所づくり（放課後子どもプラン）

「学び合い」のために～教師の適切な支援を～

「学び合い」を行うためには、子どもが自分自身の考えをもち、その考えを互いを知ることや、それらの考えの相違点や類似点を明確にし、整理し、価値付け、深めること（思考の共有と吟味）が必要です。そのために教師は、課題の提示、発問、板書等の授業技術の基本を踏まえながら、子どもの言葉や表現を丁寧に聞き取り、よさや教材のポイントを見逃さずに取り上げ、全体に広げる適切な支援が大切です。

事例「計算のしかたをくふうしよう」 小学校 算数科 第2学年

教師の働きかけ

児童の反応

導入

1 本時の課題をつかむ

T：式・筆算・答えを2分間でノートに書きましょう。できた人は、近くの人と確かめましょう。

T：みんなで確かめましょう。

T：（教師が筆算の手順を確認しながら板書していく。）

T：何の位から引きますか。

T：答えは何ですか。

T：これって筆算じゃないとできないのかな。

T：昨日足し算で暗算できましたね。引き算でもできるかな。

T：じゃあ、今日はそれをみんなで考えましょう。

T：めあては何て書こうかな。

ミニトマトが42こになりました。7こたべました。のこりはなんこですか。

42 - 7 = 35 こたえ 35こ

C：1の位

C：35個です。

C：暗算できそう。

C：できそう。

C：「引き算の時は、どうやって暗算しようかな。」がいじです。

④ ひき算のときはどうやってあん算しようかな

$$\begin{array}{r} 42 \\ - 7 \\ \hline 35 \end{array} \quad \text{こたえ } 35\text{こ}$$

思考の共有と吟味に向けた支援

学習課題を共有させる働きかけ

- めあてにつながる「引き算」「暗算」というキーワードを強く意識させ、子どものことばで課題を設定する。
- 既習事項をもとに、自力でできそうだという見通しをもたせ、解決の意欲を高める。

自分の考えをもたせる工夫

- 暗算をするために減数や被減数を分解することを、サクランボをどこに作るかという活動に置き換え、児童にとって取り組みやすくする。
- 「わ！はかせ」の合いことばで数の分け方を吟味する基準を意識させる。

つまづいている児童への対応

- 友達の考えを見て参考にするように指示する。
- つまづきの原因を的確にとらえ、子どもの実態に応じた助言をする。

子どもの考えを交流させる工夫

- 同じ考えのワークシートをグループ分けして貼らせるなど、書き込んだ考えを必然的に比較検討しなくてはならない場を工夫する。
- 友達同士で話し合いながら共通点、相違点について気づくことができるようにする。

考えのよさに気づかせる発問

- 自分と違う友達の考えを説明させる場を設定し、自分以外の考えにも共感しながら理解を深めるようにする。
- 同じ考え（違う考え）はどれかに気づかせる発問によって考えを整理し、引き算の暗算の仕方を一般化していくようにする。
- 「わ！はかせ」をもとに、考えを検討し、数の分解の仕方が数学的に価値のあるものかどうかの判断をする。

誤答を生かす働きかけ

- 誤答を取り上げ、間違いの理由を全員で考えさせる。
- 考えさせる間を大切にし、子どもの表情やつぶやきをもとに発問をする。
- 間違っただけの考えや活動についても認め、自信を失うことがないように配慮をする。

成果を実感できるまとめの工夫

- 子どものことばを大切に取上げ、子どもの力でまとめさせるように支援し、達成感をもたせるようにする。
- 本時の学習の成果が自覚できるような評価の場と方法を工夫する。

展開

2 自力解決する

T：どうやって考えますか。

T：ダブルサクランボはどこに作るんだっけ。

T：サクランボでもダブルサクランボでも、ただ数を分けたんでは、「わ！はかせ」ではなくなるんだよね。

T：いっぱい分けすぎると難しくなるから意味のある数に分けることが大事ですね。では、今日も「わ！はかせ」な考えを探していこうね。

T：8分間で暗算の方法を考えよう。

T：（机間指導によりつまづいている児童に支援する。）

T：黒板に貼られたみんなの考えを見てきてもらえ。

T：（7の分解方法が分からない子どもに対して）42の一の位に2とあるから、7に2は隠れていないかな。

C：サクランボ計算をします。

C：ダブルサクランボ計算もできそう。引く数や引かれる数を分ければいい。

C：引く数と引かれる数

C：前サクランボ、後ろサクランボ

C：いろんな分け方があるぞ。

C：あんまり細かくしちゃうとだめ。

～自力解決～

「わ！はかせ」
わかりやすい
はい
かんたん
せいかく

T：（自分の考えをワークシートに書かせ、教室の前にセットした移動式黒板に貼らせる。分らないところは聞くようにしながら、それぞれの考えをだまかに分類するようにする。）

C₁：全員ぼくのど違うんだけど、どこに貼ったらいんだ。

C₂：どれどれ、違うところに貼っておけばいいんじゃない。

C₃：（黒板に貼られた友だちの考えを見て）あ、そうか。42を40と2に分けるといいの。

C₄：（自分と同じ考えの友だちを見つけて）ねえねえ、C₄ちゃんも40と2に分けたの。

C₅：そう。だって2がすぐに取れるからね。

C₆：同じ。 C₅：いっぱいあるなあ。7を分けるやり方もできそう。

3 全体で話し合う

T：計算方法を発表してもらいます。

子どもO

$$\begin{array}{r} 42 \\ \underbrace{\quad} 20 \quad \underbrace{\quad} 22 \\ - 7 \\ \hline 35 \end{array}$$

- ① 42を20と22に分けます。
- ② 7を2と5に分けます。
- ③ 20から5をひいて15、22から2を引いて20
- ④ だから、残った15と20をたして35

子どもP

$$\begin{array}{r} 42 \\ \underbrace{\quad} 40 \quad \underbrace{\quad} 2 \\ - 7 \\ \hline 35 \end{array}$$

- ① 42を40と2に分けます。
- ② 7を5と2に分けます。
- ③ 2 - 2 = 0
- ④ 40から5を引いて35です。

子どもQ

$$\begin{array}{r} 42 \\ \underbrace{\quad} 32 \quad \underbrace{\quad} 10 \\ - 7 \\ \hline 35 \end{array}$$

- ① 42から10を借りたら残りは32
- ② 10 - 7 = 3
- ③ 32と3をたして35

子どもR

$$\begin{array}{r} 42 \\ \underbrace{\quad} 2 \quad \underbrace{\quad} 40 \\ - 7 \\ \hline 35 \end{array}$$

- 42 - 2 = 40 40 - 5 = 35
- 子どもS
- $$\begin{array}{r} 42 \\ \underbrace{\quad} 21 \quad \underbrace{\quad} 21 \\ - 7 \\ \hline 35 \end{array}$$
- 2 + 1 = 3 7 - 2 = 5

T：Qさんが、42から10を借りてきたのはどうしてでしょう。
T：このやり方は、意味ある数に分けているかな。
T：次は、Pさんの考えをUさんに説明してもらいます。
T：他の考えと同じ所が見えますか。

C：10から7を引けば簡単に答えが出るから。
C：「わ！はかせ」になっているから意味がある。
U：（Pさんの考えを説明する。）
C：PさんとRさんの考えは似ています。
C：やっていることが同じです。
C：7を2と5に分けて、最初に2に目をつけて引いているところが同じ。
C：書き方が違う。PさんとRさんはやっていることは同じなんだけど、Pさんは、42も分けている。
X：42を21と21に分けます……
C：（あれ！変だぞというこぼが子どもたちから漏れる。）
C：分けた意味がないと思う。ひく数からひかれる数を取っていいのかな。
C：42を21と21に分けたのに、42の2を7 - 2にしたんじゃないですか。

T：よく気がついたね。やっていることは同じなんだね。
T：じゃあ、どこが違いますか。

T：Xさん、Sさんの考えを説明できますか。
T：（しばらく間を置いて）
T：たぶんこう考えたんじゃないかという意見や、質問はありますか。
T：Sさんは、はじめに答えが35って分かっていたから、何とかして35にしくちゃってがんばってくれたんだね。数の分け方を工夫すればできたね。

終末

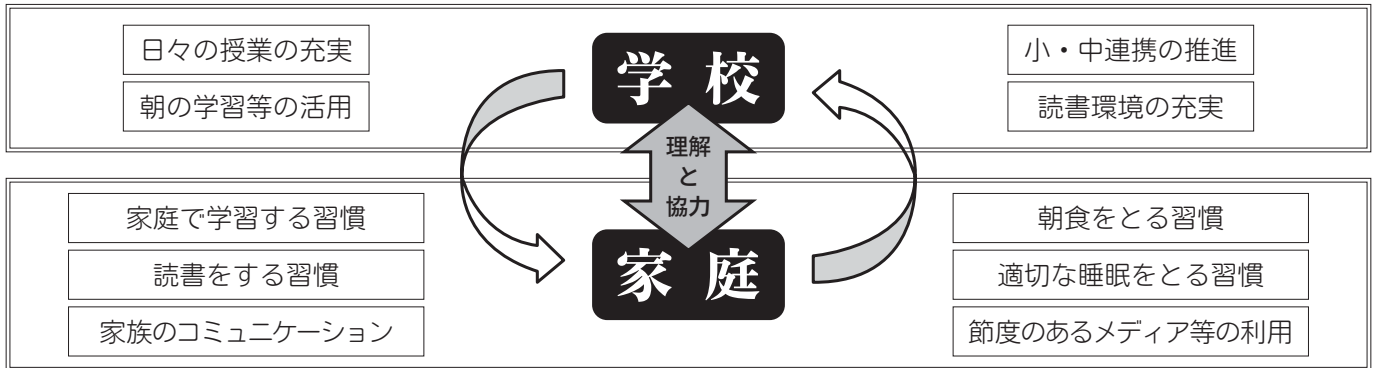
4 本時の学習のまとめをする

T：みんなの考えに名前をつけよう。
T：いいね。（7を分けたものも指して）これは？
T：足し算の時と似ているね。（両方分けたものも指して）これは？
T：いろんな考えが出てきたけど、結局どうやって考えたら早く正確に暗算できるのですか。
T：今日のまとめは何て書きますか。

C：前サクランボです。
C：後ろサクランボがいいです。
C：ダブルサクランボです。
C：引く数と引かれる数を分けて考えるとできる。
C：（適用問題を解く）
C：引く数や引かれる数にサクランボを作ると計算が速い。（ノートにまとめと感想を書く）

望ましい学びの習慣の確立に向けて

望ましい学習習慣を身に付けさせるためには、何よりも授業での学び方が基盤となってきます。また、充実した家庭学習に向けて、学校では家庭における子どもの生活習慣等を把握し、保護者会や学校だよりなどを通して保護者と課題を共有するとともに、望ましい学習習慣の確立について家庭を啓発していく必要があります。学習サイクルの確立については、家庭の理解と協力を得ながら推進していくことが大切です。



平成22年度 学びの習慣を育てる事業

家庭学習プログラム開発校



**本宮市立
白岩小学校**

児童数225名(普通学級11、特別支援学級1)



**本宮市立
本宮第一中学校**

生徒数447名(普通学級15、特別支援学級2)

家庭学習の仕方

授業と家庭学習の接続

家庭での望ましい生活習慣の確立

学校の方針を明確にする

家庭と連携して支援する

「家庭学習の手引き」の作成と活用 (小)

- ・「めざせ 家庭学習の達人」の作成と活用
- ・低学年、中学年、高学年ごとに作成

「学習の手引き」の活用 (中)

- ・学習のねらい
- ・各教科の学習のポイント
- ・家庭学習の進め方

家庭学習強化週間の実施 (小)

- ・家庭での自主学習の強化

学習訓練強化週間の実施 (中)

- ・6つの約束の項目ごとの反省を記録
- ・学習の反省を文章で記録
- ・学級担任の確認印とコメント

先行学習(予習)を生かした確かな学力を形成する授業づくり (小)

- ・理解確認→理解深化→まとめの授業展開 (教えて考えさせる授業: 予習内容を明確に指示)
- ・予習内容をもとにした意見交換・話し合いの場の授業への位置付け
- ・共同(協同)的な学びで課題を解決する活動の授業への位置付け

予習と関連づけた授業の展開の工夫 (中)

- ・予習としての課題提示と、予習で各自が行ってきた学習と授業内容との関連
- ・興味・関心を高め、目的意識をもって授業に臨む姿勢の育成
- ・授業研究会等での研修による、全教職員の共通理解

家庭学習記録表の作成 (小)

- ・宿題、音読、他にしたことを記録
- ・学習時間、家庭での自主学習や生活についての記録
- ・就寝時刻、起床時刻、朝食についての記録
- ・保護者と学級担任からのコメント

家庭学習、家庭生活調査の実施 (中)

- ・家庭での5教科の学習内容を詳細に記録
- ・家庭での自主学習や生活についての記録
- ・学習時間、一週間を振り返っての反省を記録
- ・保護者と学級担任からのコメント

学習相談の実施 (小)

- ・都道府県検定の実施(校長室の活用)
- ・学習相談事例検討会の実施
- ・校内研修会で外部講師からのアドバイス

両校の実践では、学校の方針をしっかりと保護者に伝え、伝えた内容に基づいて全教職員が共通理解と認識をもって子どもたちへの指導をしていました。そのような学校の姿勢が保護者の理解に結びつき、家庭との連携につながることができました。このことを参考にして、各校においては子どもの実態に即して学校の方針を明確にし、それらを確実に保護者に伝え、全教職員が同じ方向性で指導していくことが望めます。

2校の実践は、県北教育事務所の指導のページ<http://www.kenpoku-eo.fks.ed.jp/sidou/>に掲載して紹介しています。